

✈️ 航空宇宙の取り組み2005まで ✈️

■HASTICセミナー「宇宙開発の新しい流れは北海道から」

NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター（HASTIC）（札幌市）によるセミナー「宇宙開発の新しい流れは北海道から」が、2005年11月24日午後2時から大樹町経済センター2階多目的ホールで開催されました。

HASTIC秋葉鎌二郎理事長、同伊藤献一専務理事、北海道大学大学院永田晴紀助教授が講演、民間による宇宙開発を進めよう、水平離着陸機による宇宙旅行ビジネス、ハイブリッドロケットによる衛星打上げなど、実用化目前の取り組みを紹介、大樹町の多目的航空公園は脚光を浴びる存在と述べました。

セミナーに出席した40名は、夢のある話に興味深く聞き入っていました。



■「めざせ宇宙飛行士！北の大地から」JAXA宇宙飛行士土井隆雄さん講演会

1997年スペースシャトル・コロンビア号によるSTS-87ミッションに搭乗し、日本人宇宙飛行士初の船外活動を行ったJAXA宇宙飛行士土井隆雄さんの講演会が、10月31日町内大樹高等学校で開催されました。158名の全校生徒と教員、一般合計約200名が参加、スライドを使って宇宙での活動を詳しく紹介、近い将来月面基地や火星基地ができるだろうと語り、最後に「宇宙を目指せ」と航空宇宙産業基地をめざす大樹町の若者にエールを贈りました。

会場から「宇宙に生物はいるか」、「風呂はどうしていたか」、「怖くなかったか」などの質問にステージを降り、気さくに答えていました。

翌日、大樹町多目的航空公園を視察し、広大で自然豊かな公園を見て、「素晴らしい施設、多方面に活用を」と言っていました。

夕方帰京した土井さんは、2日再び渡米するそうです。大変忙しいスケジュールの中、おいでいただきました。



■国際宇宙会議(IAC)福岡大会出展

10月16日から21日まで福岡市で開催された国際宇宙会議福岡大会の宇宙フェアにNPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC;札幌)と十勝圏航空宇宙産業基地構想研究会(事務局;帯広市)とともに大樹町も出展しました。

3m角の出展ブースにCAMUIロケットのモデルや本年3月大樹町で打ち上げたハイブリッドロケットのビデオ放映、パネルやパンフレットで町多目的航空公園、小型衛星開発、超音速機開発などの取り組みを紹介、国内 外の研究者にPRすることができました。

フェアでは昨年大樹町で行われた成層圏プラットフォーム定点滞空飛行試験、2001年高空落下試験を行ったUSERS(ユーザーズ)、今年3月打ち上げ実験を行った東海大学ロケットプロジェクトも展示していました。

IACは世界50カ国から2,500人の宇宙関係者が参加、フェア会場も国際色豊かな参加者で賑わっていました。



■JAXAタウンミーティングin帯広

JAXAタウンミーティングとは、日本の宇宙開発について、市民の皆様と直接お話をしながらご意見を交換する、これまでになかった新しい形の宇宙開発の意見交換会です。講演やシンポジウムとは異なり、出席されている方は1人1人がご意見を自由に述べることもできますし、それに対してJAXAからも意見を出していくこととなります。このような意見のやりとりの積み重ねによって、将来の宇宙開発や宇宙科学につながるアイデアや、方針ができていくことを狙っています。

2005年8月28日帯広市とかちプラザにおいてJAXAタウンミーティングin帯広が開催されました。約100名の参加者とJAXA樋口清司理事、宇宙教育センター的川泰宣センター長が壇上で、宇宙飛行士土井隆雄さんはTV中継でアメリカから参加して日本の宇宙開発のあり方など熱心に意見交換しました。

会場から「地球環境が危険であることを宇宙飛行士はもっと伝えるべき。」「日本は自国のロケットを開発し続けるべき。」「300万円で宇宙旅行できるようにしたい。」などの意見があり、登壇者から「北海道は宇宙への夢が大きいところとの印象を強くした」



とのことでした。

■第8回ペットボトルロケットコンテストin大樹

町では不要となったペットボトルを使って水ロケットを作製、飛距離コンテストを行っています。

毎年7月に制作教室を開催、8月第一日曜日に開催される「歴舟川清流まつり」においてコンテストを実施、今回は2005年8月7日(日)に開催、高記録が続出しました。



■北海道衛星株式会社設立記念講演・レセプション

2004年12月7日大樹町経済センターで「北海道衛星株式会社設立記念講演・レセプション」が開催されました。

この日設立された北海道衛星株式会社は、北海道工業大学佐鳥新助教授が代表取締役社長となり、「大樹」と名づけた小型衛星の製造と運用などを行います。

航空宇宙産業基地形成に取り組む大樹町に本店を置き、当面は札幌などで調査設計を行い、その後大樹町内で衛星を製造する予定です。

佐鳥社長の講演のあと、レセプションでは小谷内勲大樹町議会議長の乾杯、伏見悦夫町長の祝辞などで参加した町内外の関係者約50名は、大樹町初の宇宙産業が誕生したことを喜び、また今後の発展を祈念していました。



北海道衛星株式会社設立記念講演/レセプション



北海道衛星株式会社設立記念講演/レセプション



■十勝管内航空宇宙関係実験等誘致に関する説明会

2004年11月30日、12月1日の2日間、北海道十勝支庁主催による「十勝管内航空宇宙関係実験等誘致に関する説明会」が、大樹町・広尾町・陸別町などを会場に開催され、航空宇宙関連会社、大学などのべ30名が参加、十勝の実験環境を見学、受入体制などの説明を聞きました。

大樹町では「成層圏プラットフォーム・定点滞空飛行試験」の概要と実験施設を見学し、多目的航空公



園で実施されたこれまでの実験などについて説明しました。

その後、広尾町の十勝港を見学、翌日陸別町の銀河の森天文台を視察しました。

視察の後、室蘭工業大学教授 棚次巨弘氏からスペースプレーン構想、宇宙空間産業研究会副理事長 福島充氏から北海道衛星について講演いただきました。



■宇宙産業ミニセミナー2

2004年10月26日大樹町経済センターでNPO法人宇宙空間産業研究会主催による「宇宙産業ミニセミナー2」が開催されました。大樹町での開催は7月に続き2回目。セミナーでは佐鳥新北海道工業大学助教授と福島充氏が(株)北海道衛星の設立予定と開発製造する小型衛星の名称が「大樹」に決まったこと、小型衛星に搭載する高精度カメラで農業分野に役立てたいと話し、参加者から「河川氾濫時の流木の情報を提供できないか」「金鉱脈を探索できないか」など質問が相次ぎました。



■2004年国際航空宇宙展出展

2004年10月6日から10日まで横浜市「パンフィコ横浜」で開催された2004年国際航空宇宙展に北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC)と十勝圏航空宇宙産業基地構想研究会とともに大樹町も出展しました。(写真:左)

期間中台風22号に見舞われましたが、約11万人の来場があり、町多目的航空公園のPRをすることができました。

出展の中には、大樹町で実験をしたUSERS(ユーザーズ)REMの実機や現在実験中の成層圏プラットフォーム大樹実験場の模型(写真:右)もあり、注目を集めていました。



■町内小中学校児童生徒 定点滞空試験機見学会開催

2004年10月4日町内の全小中学生と引率教諭(560名)が、多目的航空公園で行われている成層圏プラットフォーム飛行試験の定点滞空試験機を見学しました。

ヘルメットをかぶって飛行船格納庫の中へ、目の前に巨大な飛行船が現れると驚きの声をあげていました。

記念写真を撮ったり、飛行船本体を形成している厚さ0.2ミリの膜材に触れてみたりして町内で行われ



ている最先端の技術開発を知る機会となりました。
「飛行船に乗ってみたい」「飛んでいるところを見たい」の声のほか「何に使うの?」「いくら掛かったの?」などと質問していました。



■とち宇宙体験フェア開催

2004年9月11日とち宇宙体験フェア(北海道十勝支庁、十勝圏航空宇宙産業基地構想研究会主催)が大樹町を会場に開催されました。

多目的航空公園で成層圏プラットフォーム定点滞空試験機を見学、生涯学習センターで北海道で開発中のハイブリッド・ロケットの講演聴くなど、130人余の参加者は、十勝で行われている航空宇宙に関する取り組みを身近に感じることもできる1日となりました。



■第7回ペットボトルロケットコンテストin大樹

町では不要となったペットボトルを使って水ロケットを作製、飛距離コンテストを行っています。

毎年7月に制作教室を開催、8月第一日曜日に開催される「歴舟川清流まつり」においてコンテストを実施。



■宇宙産業ミニセミナー開催

2004年7月22日NPO法人宇宙空間産業研究会によるミニセミナーが、大樹経済センターで開催されました。

講師は宇宙産業研究会理事長の佐鳥新北海道工業大学助教授と同副理事長の福島充氏、両氏は北海道産の小型人工衛星の開発・製造・運用を計画しており、宇宙基地のまち大樹町に拠点を置き、札幌と二拠点で活動し、近々大学発ベンチャー「北海道衛星(仮称)」を立ち上げる予定。

重量50kg足らずの衛星は、海外から打上げ、特殊カメラを搭載し、詳細な農業情報などを提供、食料基地とちのブランド化に貢献するなどの運用を目指しています。

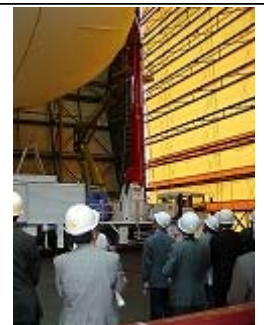


■三地域航空宇宙関係団体連絡会開催

2004年7月20日21日の両日、北海道宇宙科学創成センター(HASTIC)が主催する三地域航空宇宙関係団体連絡会が、帯広市内で開催されました。

九州航空宇宙開発推進協議会、中部航空宇宙技術センター、HASTICなど関係団体から30名余りが出席、各地域の航空宇宙に関する取組状況などを報告、共同で国の航空宇宙関連予算の確保を要請することとしました。

会議の後、JAXA総合技術研究本部竹田繁一チー



フマネージャーを講師に大樹町で行われている「成層圏プラットフォーム定点滞空飛行試験」の講演を聴講し、21日大樹実験場を見学しました。



■HASTICセミナー開催

2004年3月13日午後2時から北海道宇宙科学技術創成センター(通称HASTIC)、十勝圏航空宇宙産業基地構想研究会、大樹町が主催する「北海道衛星とロケットのセミナー」が、町生涯学習センターで開催されました。

北海道産小型衛星の開発に取り組む北海道工業大学の佐鳥新助教授が、NASAの火星探査の状況や、小型、安価の衛星で作物の生育状況などが手に取るように解るようになると説明、同大学大滝誠一教授は大樹町で数回行った飛翔体の実験の内容と翌日行われる三角の翼を付けたハイブリッドロケットの実験内容を説明、失敗を恐れずに挑戦することが大事と話されました。終わりにHASTIC副理事長伊藤献一氏が、大樹町から大型ハイブリッドロケットを打上げて実用化を目指したいとあいさつしました。

高校生と一般の方35名が参加、災害防止に使えないかなどと質問していました。



■JAXA宇宙飛行士若田光一さん来町

2004年2月1日、十勝支庁と十勝圏航空宇宙産業基地構想研究会が主催する「とち宇宙セミナー宇宙への夢」の講師として来勝した宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙飛行士若田光一さんが、午前、成層圏プラットフォーム定点滞空飛行試験大樹実験場を視察しました。

巨大な格納庫の中で組み立て中の飛行船を視察し、担当者に飛行船の飛行方法について熱心に尋ねていました。

大樹町でたくさんの航空宇宙関連実験が行われていることに驚いた様子でした。

午後からは帯広市内で講演し、「目標をもって取り組むことが大切」と十勝っ子にメッセージをおくりました。





■成層圏プラットフォーム大樹実験場見学会

2003年12月16日、17日多目的航空公園に整備された成層圏プラットフォーム大樹実験場で、2004年に実施される60m級飛行船による定点滞空飛行試験の概要説明と実験施設の見学会が実験実施主体の宇宙航空研究開発機構及び通信・放送機構により行われました。町議会、地域住民など80名が出席し、飛行管制棟の気象観測機器や巨大な飛行船格納庫を見学しました。



■第6回ペットボトルロケットコンテストin大樹

不要となったペットボトルを使って水ロケットを製作、飛距離コンテストを行っています。

毎年7月に制作教室を開催、8月第一日曜日に開催される「歴舟川清流まつり」においてコンテストを実施。



■航空宇宙フェア2002in大樹

2002年6月30日から7月7日まで、航空宇宙に取り組む大樹町を紹介する「航空宇宙フェア2002in大樹」を生涯学習センターで開催しました。

多目的航空公園で実験をしたUSERS、SELENE、成層圏プラットフォームなどを展示、また広場ではウルトラライトプレーン展示、ラジコンデモフライト、10m飛行船デモフライトが行われ、大勢の参加者でにぎわいました。





■宇宙のまちづくり討論会

2003年3月29日宇宙開発事業団広報室主幹渡辺勝巳様、(財)日本宇宙フォーラム理事神田紅様(講談師)をお招きして、「宇宙のまちづくり」をテーマに討論会を開催

